

国登録 登録有形文化財

旧佐伯海軍航空隊掩体壕



面積225㎡の鉄筋コンクリート造で、矩形の開口部で縁取ったヴォールト構造部分の後に、尾翼を収納するためのほぼ半円筒状の構造体が付く特徴的な形態をもつ。戦時耐弾構造物の一例で、旧海軍航空機の防空用格納施設として広く知られている。佐伯には昭和9年2月に佐伯海軍航空隊が開隊し飛行場等が建設された。昭和16年11月に、真珠湾攻撃に先立ち佐伯湾で連合艦隊の統一訓練が行われるなど、佐伯と太平洋戦争の関わりがうかがえる。昭和20年頃になると米軍の空襲が激しくなり、待機中の戦闘機を守るために掩体壕が設置された。現在は2基残っており、登録は1基である。